

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 30 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	28.6	3.4 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	35.9	6.84 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	34.7	0.21 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.5
2号機	循環冷却システム	運転中	23.4
3号機	循環冷却システム	運転中	22.4
4号機	循環冷却システム	停止中	22.5

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

[4号機]

- ・9/29 5:17 ~ 使用済燃料プール代替冷却系について、当該系の循環冷却設備電源切替盤の点検を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:21.6)。
- 9/30 15:47 作業が終了したことから、使用済燃料プール代替冷却系を起動。運転状態について異常はない。現在、使用済燃料プール水温度は22.6 であり、停止時の21.6 からの上昇は運転上の制限値(65)に對して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/27 14:41 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 13:33 ~ 9/30 9:58 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/30 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}	A、B系 ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20 ~ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

- ・H26/9/21 22:00 ~ 多核種除去設備C系において、鉄共沈処理を行っているクロスフローフィルター(CFF)を改良型CFFへ交換するため、処理運転を停止。処理運転停止後の状況について異常がないことを確認。
- H26/9/30 15:02 作業が完了したことから、処理運転を再開。運転状態についても異常がないことを確認。
- ・H26/9/27 10:45 ~ 増設多核種除去設備B系において、RO濃縮塩水を用いた系統試験(ホット試験)を開始。運転状態については、漏えい等異常がないことを確認。
- H26/9/30 調査の結果、炭酸塩の流出した範囲は、16塔ある吸着塔の1塔目までと判明。今後、念のため2塔目まで系統内の洗浄および吸着材の交換を実施予定。また、白濁が確認された当該CFF(8B)の取り外しを行い、点検・原因調査を実施していく。

< 5. その他 >

- ・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
- 8/12 ~ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- 6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/9/30 8:30頃 新事務棟において、電気関係作業を行っていた協力企業作業員が感電したとの連絡が緊急時対策本部に入ったことから、同日8:32に救急車を要請。感電した協力企業作業員は意識があり、構内の救急医療室にて心電図検査を実施して異常がないことを確認。同日9:22に救急車にていわき市立総合磐城共立病院に搬送。病院にて治療を受けており、数日間入院することとなった。今回の事故については、同日16:10電気関係報告規則第3条第1項第1号「感電又は破損事故若しくは電気工作物の誤操作若しくは電気工作物を操作しないことにより人が死傷した事故(死亡又は病院若しくは診療所に治療のため入院した場合に限る)」に該当すると判断。
- H26/9/30 8:26頃 所内の電源設備(共用プールM/C*)において、地絡警報(共用プールM/C(B)母線地絡、共用プール低圧電源系(B)異常)が発生。同日8:38頃、共用プール電源系の電圧が正常であること、共用プール冷却に異常がないことを確認。また、1~4号機主要パラメータおよび、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。同日8:59、共用プール電源設備に異常が無いことを確認し、「共用プールM/C(B)母線地絡」、「共用プール低圧電源系(B)異常」の警報をリセット。また、1~4号機のプラント設備においても異常は確認されていない。その後調査した結果、所内共通M/C2Bの電源系統に接続された新事務棟の電源設備で、協力企業作業員の感電事故が発生したことに起因して、瞬時発生した警報であると確認。また、新事務棟も停電していたが、同日15:18電源復旧した。
- * M/C(メタクラ): 所内高電圧回路に使用する動力用電源盤
- ・H26/9/30 10:11 5号機残留熱除去系(以下、「RHR」という。)(A系)については、原子炉停止時冷却モードにて運転中だが、点検停止中のRHR(B系)の(B)(D)ポンプの運転確認を行うため停止(停止時原子炉水温度: 28.9)。なお、冷却停止時の原子炉水温度上昇率評価値は0.369 /hで、停止中の原子炉水温度上昇は約3と評価されることから、運転上の制限値100に対して余裕があり、原子炉水温度の管理上問題はない。同日16:07 RHR(B系)の運転確認が完了したことから、RHR(B系)の(B)ポンプを起動し原子炉水の冷却を開始。運転再開後の原子炉水温度は、停止時の28.9から30.6に上昇したが、運転上の制限値100に対して十分余裕があり、原子炉水温度の管理上問題はない。また、RHR(B系)の(D)ポンプについては、モーターの振動が大きかったことから、点検を実施していたが、モーター軸受(ベアリング)に傷が確認され、新品に交換したことから、モーター軸受(ベアリング)交換後の運転確認を合わせて実施していたが、運転状態に異常が無いことを確認。

[地下水バイパス揚水井の状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日9/19]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、9/28 9:50 ~ 15:37 海洋への排水を実施。排水量は1,422m³。この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上